

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 姫島 開催概要

[開催日：令和3年10月11日（月）]

〔学校等訪問①〕 姫島村立姫島中学校

〔訪 問 者〕 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）
姫島村教育委員会（須賀教育長、教育委員、教育課長 他）

姫島中学校では、特別な教育課程「ふるさと科」を設置し、姫島を愛する生徒の育成に取り組んでいます。「ふるさと科」では、学年ごとに「ふるさとを知る」「ふるさとから学ぶ」「将来のふるさとについて考える」をテーマに、様々な学習活動を取り入れ、生徒の心の安定を基盤とした教育活動を実践しています。

他の教科も同様に学校全体で「考えをまとめ、主体的に伝え合う力を育てる授業」を目指し、互いの考えを伝え合う話し合い活動を位置付け、思考を深めるために効果的な ICT 活用を取り入れた一時間完結型の授業が行われていました。

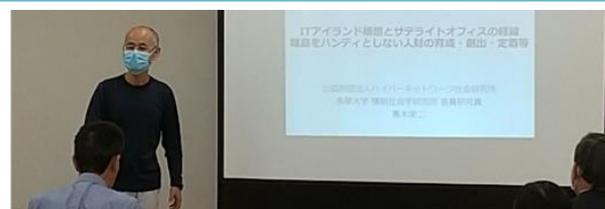


「課題」を引き受け、自分の考えをまとめる

〔学校等訪問②〕 姫島村 IT アイランドセンター

〔訪 問 者〕 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）
姫島村教育委員会（須賀教育長、教育課長 他）

IT アイランドセンターでは、「姫島 IT アイランド構想」のもと、小学生向けの「プログラミング教室」や離島でのモビリティを考える「ハイパーネットワークワークショップ」など、村内外の人々が参加できる様々な取組が行われています。



IT アイランドセンター 青木所長の説明

〔学校等訪問③〕 姫島村立姫島小学校

〔訪 問 者〕 訪問先①に同じ

姫島小学校では、中学校と同様に「ふるさと科」が設置され、学年ごとに年間のテーマを設定し、課題追求型の学習展開を探究しています。第一学年から外国語活動が実施され、早い段階から外国語に慣れ親しむ学習環境も整備されています。小中の連携を重視し、小中で統一した学校教育目標のもと、9年間で目指す子ども像を具体的なものとするために、4部会を中心として、系統性・連続性・継続性を重視した教育を推進しています。

学力向上を学校研究の中心的な柱とし、組織的な取組が行われており、日常の授業実践を何よりの研究の場ととらえ、児童の実態に応じた細やかな学習指導が行われていました。



膝をつき合わせて、互いの考えを交流

【意見交換会テーマ】「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上

・小中連携による姫島っ子の「確かな学力」の向上に向けた取組について

【出席者】 学校訪問①及び姫島小・中学校長、教頭

意見交換会では、学校訪問の様子からの質疑を行った後、各学校長から自校の取組の成果や課題等を紹介いただきながら意見交換を行いました。

(1)『確かな学力』の向上に向けて

- ▶小学校では、一人ひとりにしっかり力を付けていくことを共通理解。学級経営の基盤である「聞く姿勢」を育てていくことを徹底し、低学年からの積み重ねで学力が向上。
- ▶低学力層の学力向上に向け、地域素材を用いた楽しい授業を目指すことを工夫した。そして、基礎基本の力を付けるため、実態一覧を作成して共有。また、地域、保護者の支援による「かっこ塾」を活用した補充指導に加え、12月実施の村学力調査の分析を各担任が行い、3学期の具体案を立てた。
- ▶中学校では、学力だけでなく心の教育を大切にしており、学力が伸び悩んでいた生徒たちも、学年が上がるごとに落ち着きを見せている。また、県内他地域の中学校とも連携して多様な考えに触れる機会をつくっている。



島全体で大事にすべきことについて活発な意見を
(岡本 県教育長)

(2)教員の人材育成に向けて

- ▶新採用者は新大分スタンダードに則って授業実践に取り組んでいる。また、ICTに明るく、日常的に有効活用している。前例踏襲型ではない新しいことに取り組もうとしている教員が思いきって実践できるようにしている。
- ▶一人ひとりに目を配る経験を積むことができるのは小規模である姫島の強み。不十分な点はベテランが支えてくれている。また、必然的に若手が担任や主任の経験もできている。



島全体で「生きる力」を身につけさせたい
(須賀 村教育長)

【主な意見】

- ▶姫島村はジオパークをはじめ世界に発信すべき要素が多い。その特色をもっと発信して世界とつながることに目を向けてはどうか。また、小中学校の段階だけでなくグローバルな人材育成や高校や大学後といった大人になるまでのもっと長いアプローチでの姫島っ子の育成を視野に入れて考えていくことが大切ではないか。
- ▶特別な教育課程における教科としての「ふるさと科」については、小1から中3までの教育課程に教えたいことを明示することが、ふるさとを愛する心を持たせることにつながるのではないか。そのためにも、ESDカレンダーや年間計画等の優れた取組の発信をお願いしたい。「学びの地図」としての年間計画等をぜひ児童生徒にも渡して共有することで、より主体的に「ふるさと科」の学びを教科の学びにつないでいけるのではないか。
- ▶児童生徒は穏やかな性格である一方、言語能力の育成や外界への関心を持つことに課題。卒業後の進路も踏まえしっかりと力を付けてほしい。

【意見交換を終えて(岡本県教育長から)】

皆さんから貴重な時間をいただき、ありがとうございました。とても参考となる取組を拝見させていただいた。県教育委員会も「スーパーなチーム」にしていきたいと思っておりますし、「月曜日に必ず行きたくなるような組織」となるようにしていきたい。